

表 1 出題問題の検討

不適切問題

問題	検討内容
<p>午後 31</p> <p>てんかん合併妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠によって、てんかん発作の頻度は減少する。</li> <li>2. 妊娠中は抗てんかん薬の血中濃度を測定する。</li> <li>3. 妊娠中期から葉酸を補充する。</li> <li>4. 妊娠末期に母体にビタミン K を投与する。</li> <li>5. 分娩様式は帝王切開術となる。</li> </ol>	<p>本問は、てんかん合併妊娠に関する知識を問うものである。  <b>【産婦人科診療ガイドライン産科編 2023】</b>には、てんかん合併妊娠に関する CQ (Clinical Question) はない。</p> <p>選択肢 1 は妊娠前と同じ内容・量の抗てんかん薬 (AED : antiepileptic drug) 服用の場合、発作頻度は「不変」が最も多く、次いで「増加」、一部で「減少」することが報告されている (【新生児学テキスト (メディカ出版)】 p66 参照、【精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド各論】 G95 参照)。したがって、一律に「減少する」とは言えず、誤答である。</p> <p>選択肢 2 は【日本神経学会てんかん診療ガイドライン 2018 (医学書院)】によれば、妊娠に伴い抗てんかん薬の血中濃度が変化する場合があるため、必要に応じて血中濃度モニタリングの実施が望ましいとされている。したがって、本肢が正答である。</p> <p>選択肢 3 は同ガイドラインにおいて非妊時からの葉酸の補充 (0.4 mg/日程度) が推奨されており、「妊娠中期から」は誤答である。</p> <p>選択肢 4 の妊娠末期の母体へのビタミン K の投与について、【日本神経学会てんかん診療ガイドライン 2010 (医学書院)】では記載があったものの、同ガイドライン 2018 年版以降はエビデンスが明確でないとして削除された経緯がある。同様に【助産師基礎教育テキスト第 7 巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア (日本看護協会出版会)】の 2019 年版までは妊娠中のビタミン K 投与が記載されていたが、2020 年版以降は削除されている。現在は出生後の新生児へのビタミン K 投与が標準化されている (【新生児学テキスト (メディカ出版)】 p67 参照) ため、誤答である。</p> <p>選択肢 5 は、【日本神経学会てんかん診療ガイドライン 2018 (医学書院)】で「一般的には自然分娩が可能である」と明記されており、必ずしも帝王切開の適応にはならないため、誤答である。</p> <p>以上の通り、正答となり得るのは選択肢 2 のみであるため、本問は不適切問題とした。</p>